

## < ソフトウェア名 >

Riosanatea (リオサナテア)

## < 概要 >

Linux 用（より正確には Ubuntu 用）に作った、はがきの宛名印刷ソフトです。  
Python スクリプトなので、コンパイルなどの必要はありませんが  
外部ライブラリをいくつかインストールしていただく必要があります。

## < 使い方 >

表の編集などは触れずに、はがきの宛名印刷の最短過程に絞って書きます。

- 1、Python 本体はすでに入っているとして、以下のモジュールをインストールしてください。

wx (wxPython)

pil (Pillow)

Ubuntu20.04 においては、端末で以下のように打ち込んで実行、ユーザーパスワードを入力すれば一度にインストールできると思います。

```
sudo apt-get install python3-wxgtk4.0 python3-pil
```

ほかにも、pip というものを使った Python 環境構築方法があるそうですが私は使ったことがないので、よくわかりません。

- 2、標準で入っていないフォントを使うつもりでしたら、インストールしておいてください。

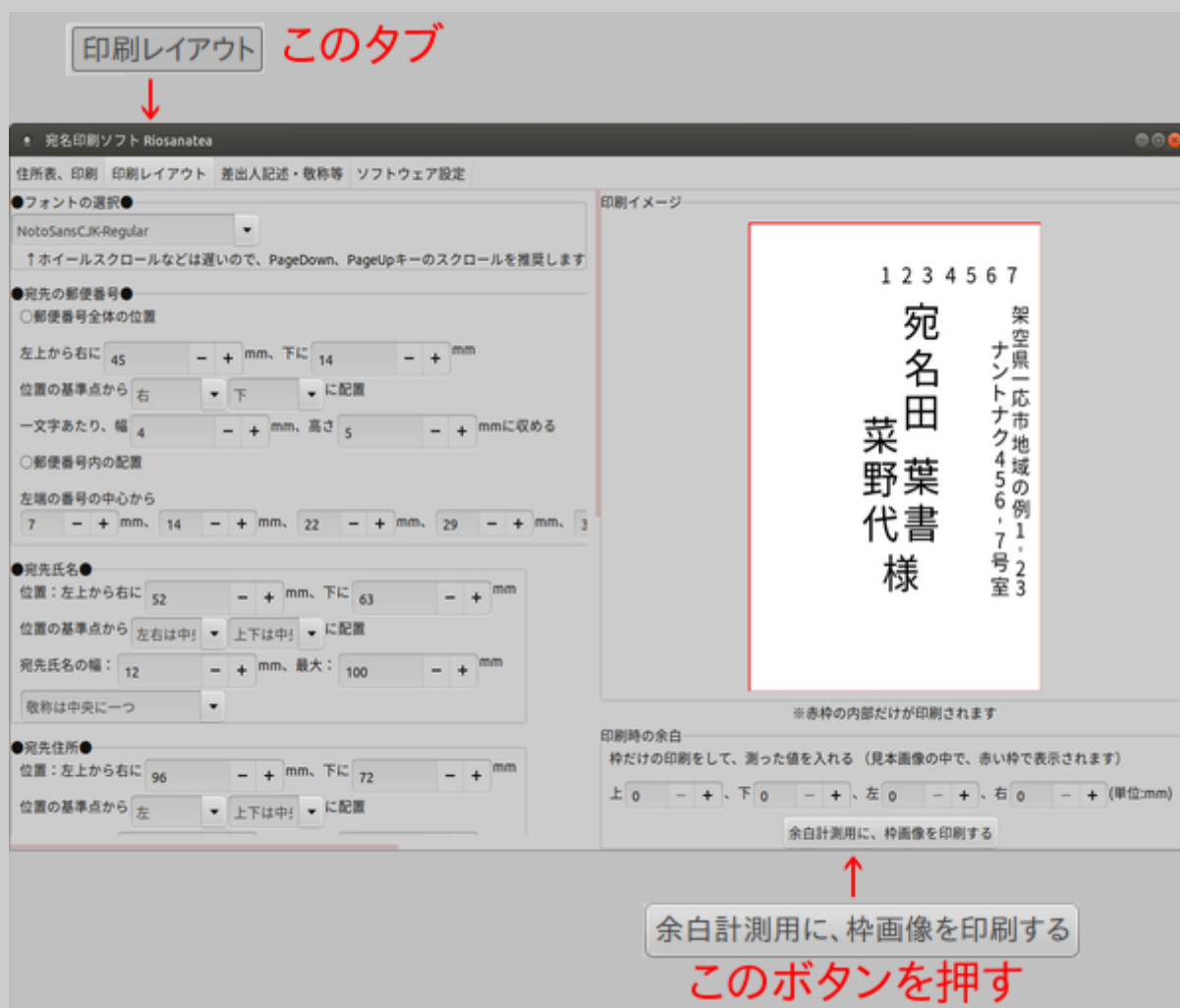
Ubuntu のリポジトリで「fonts-aoyagi-soseki」や「fonts-hanazono」といったフォントが配布されているようです。  
それらを apt-get でインストールするのもいいでしょう。

ユーザーご自身でダウンロードしたフォントでしたら、フォントビューアで開いてから「インストール」ボタンを押してもいいですし、ホームフォルダに「.fonts」フォルダを作ってそこに入れてもいいでしょう。

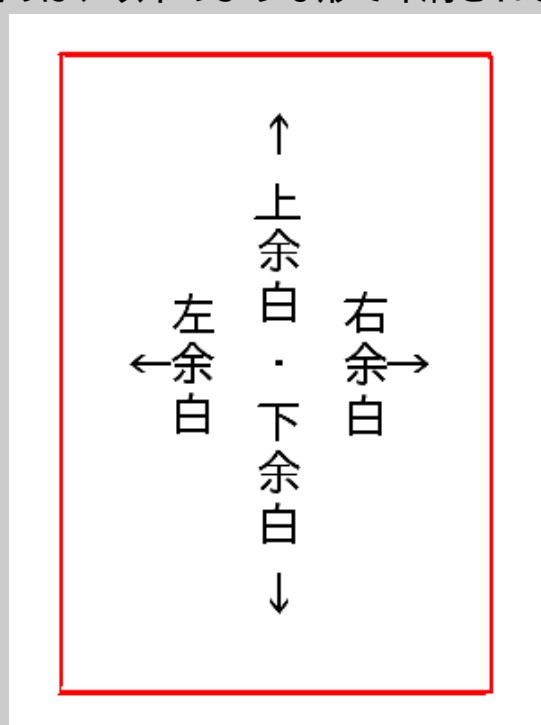
- 3、  
この ReadMe を見ている時点で、配布書庫は展開されているはずです。  
同じフォルダにある「Riosanatea.py」が本体ですので、それを起動します。  
スクリプトファイルに実行属性があるか確認して、無いようなら実行属性を付けてください。  
起動したら、念のため「印刷レイアウト」タブ左で、用紙がはがきなのを確認してください。

#### ● 4、余白確認画像の印刷と測定 （見栄えを気にしないのなら、この作業は不要です）

まず、プリンターを印刷可能にして、はがきか、その大きさに切った紙をセットしてください。  
そして、レイアウトタブの「枠画像を印刷する」ボタンを押してください。

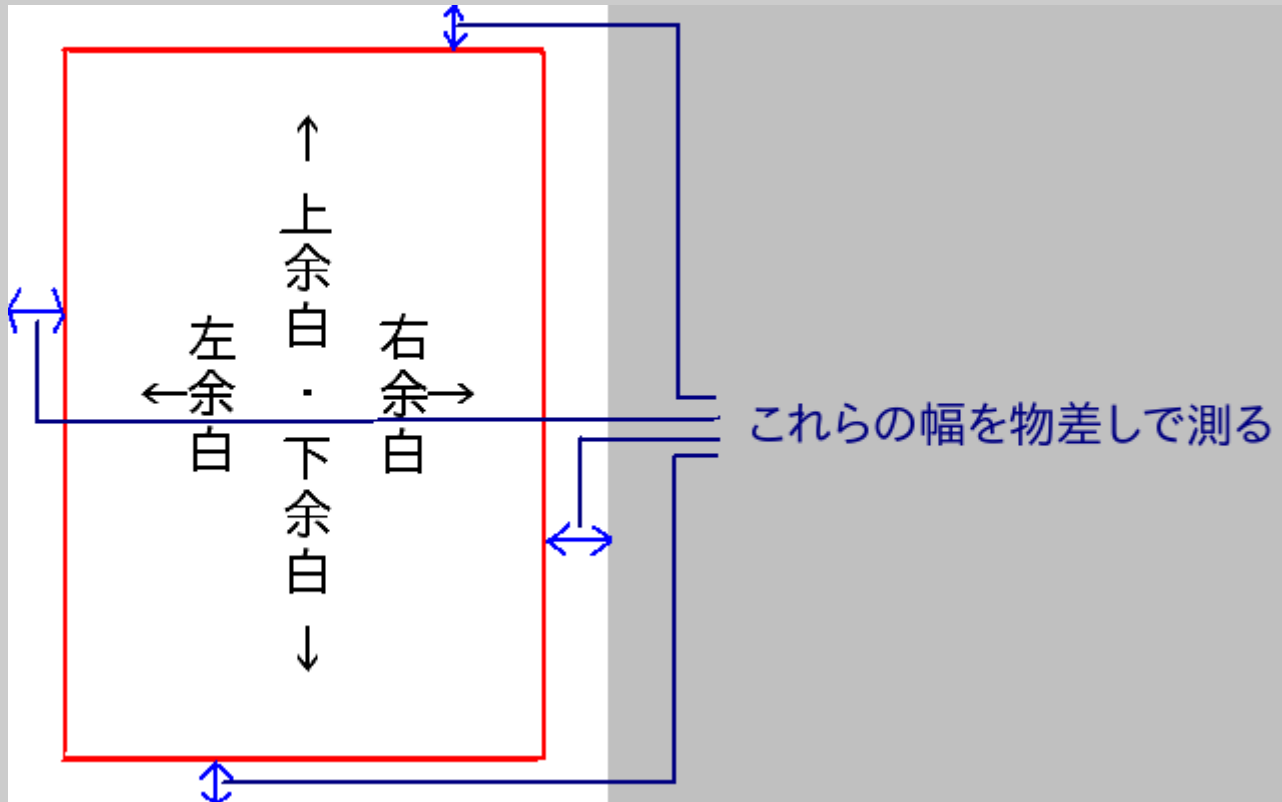


順調に進めば、以下のような形で印刷されるはずです。



※上の画像は、わかりやすくするため縮尺を部分ごとに変えています。

この紙の上下左右の余白の幅を測って、先ほどの印刷ボタンの上にある欄に入れてください。  
赤線そのものにも幅がありますから、だいたい長さでいいです。



宛名印刷ソフト Riosanatea

住所表、印刷 印刷レイアウト 差出人記述・敬称等 ソフトウェア設定

●フォントの選択●  
NotoSansCJK-Regular  
↑ホイールスクロールなどは遅いので、PageDown、PageUpキーのスクロールを推奨します

●宛先の郵便番号●  
☐郵便番号全体の位置  
左上から右に 45 - + mm、下に 14 - + mm  
位置の基準点から 右 下 に配置  
一文字あたり、幅 4 - + mm、高さ 5 - + mmに収める  
☐郵便番号内の配置  
左端の番号の中心から 7 - + mm、14 - + mm、22 - + mm、29 - + mm、3

●宛先氏名●  
位置：左上から右に 52 - + mm、下に 63 - + mm  
位置の基準点から 左右は中! 上下は中! に配置  
宛先氏名の幅： 12 - + mm、最大： 100 - + mm  
敬称は中央の一つ

●宛先住所●  
位置：左上から右に 96 - + mm、下に 72 - + mm  
位置の基準点から 左 上下は中! に配置

印刷イメージ

1 2 3 4 5 6 7  
宛名田葉書様  
菜野代  
架空県一応市地域の例1・23  
ナントナク456・7号室

※赤枠の内部だけが印刷されます

印刷時の余白  
枠だけの印刷をして、測った値を入れる（見本画像の中で、赤い枠で表示されます）  
上 0 - +、下 0 - +、左 0 - +、右 0 - + 単位:mm  
余白計測用に、枠画像を印刷する

上 0 - +、下 0 - +、左 0 - +、右 0 - +

ここに余白の数値を入れていく

そして、その上に表示されている印刷イメージにおいて、赤枠からはみ出ないように郵便番号や住所の位置の値を調整してください。（枠に重なる程度なら大丈夫です）  
※設定保存ボタンを押すか終了時に設定保存しないと、次回起動時に入力値は消失します。

なぜこんなことをする必要があるのかというと、「宛名を画像として作り、余白を除いた印刷可能な領域いっぱい印刷する」という仕組みだからです。

あらかじめ、余白に相当する部分を画像から除去したうえで印刷しないと、余白の分だけ想定した寸法からズレてしまうのですね。

● 5、「住所表編集、宛名印刷」タブに戻り CSV ファイルを読み込むか  
空欄に書き込んでいって住所表を新規に作成するかしてください。

あとは、どの列が郵便番号や住所に対応しているか確認して、印刷する行の範囲を調整して  
ハガキをセットし、「宛名印刷する」ボタンを押せば印刷できるはずです。

① 宛先のリストを記載したCSVファイルを開く

② 表の内容と、郵便番号、住所、宛名の列が一致しているか確認(お好みで敬称と印刷の可否も)  
もし食い違っていたら、「差出人記述・敬称等」タブで変更してください

宛名印刷ソフト Riosanatea

住所表、印刷印刷レイアウト差出人記述・敬称等ソフトウェア設定

開く保存履歴検索・置換行列の加減郵便

1-+行から1-+行までを宛名印刷する

	印刷の可否	郵便番号	宛先住所	宛先住所(二列目)	宛名	宛名(二人目)
1	○	0123456	このテスト用ファイルの名	適当に勘でつけたものです	山田太郎	花子
2	×	3 2 8 9 5 1 7	もし同姓同名の方がいらっ	すみません	大友健吾	
3	○	123-4567	東京都千代田区永田町1-7-		宮崎幸太郎	真理
4	×	4 6 8 - 2 7 3 1	香川県丸亀市綾歌町栗熊西	字畦田40-1	坂上智雄	

差出人情報も印刷する場合は  
このタブに記入欄があります

途中省略

③ 印刷する行の範囲を決める

④ プリンターにハガキをセットしてから、印刷ボタンを押して印刷する  
(事前に「イメージを確認」ボタンを押して、余白の除去で字が削られていないか、とか  
レイアウトを確認しておいたほうがよいでしょう。)

<敬称の列数について>

「印刷レイアウト」タブの「宛先指名」枠の下方に敬称の設定があります。  
この設定によって、宛名を連名にする場合の敬称を中央1列、2列、左のみと変更できます。

住所表、印刷印刷レイアウト差出人記述・敬称等ソフトウェア設定

●フォントの選択●印刷の参考イメージ

中略中略中略中略

●宛先氏名●

位置：左上から右に52-+mm、下に63-+mm

位置の基準点から左右は中上下は中に配置

宛先氏名の幅：12-+mm、最大：84-+mm

敬称は中央に一つ

印刷の参考イメージ

様

●宛先氏名●

位置：左上から右に52-+mm、下に63-+mm

位置の基準点から左右は中上下は中に配置

宛先氏名の幅：12-+mm、最大：84-+mm

二列それぞれに敬称を付け

印刷の参考イメージ

様様

### < ショートカットキー >

Ctrl + F 表中の検索・置換ダイアログを出します

F3 検索で検出されたセルの中で、次のセルに移動します

Shift + F3 検索された前のセルに移動します

Ctrl + Z 一つ前の表の状態に戻ります（アンドゥ）

Shift + Ctrl + Z 戻った過程を逆にたどり、表の状態を一つ後に移動します（リドゥ）

### < 郵便番号検索 >

郵政公社から、郵便番号と地域の対応を記した CSV ファイルが配布されています。

<http://www.post.japanpost.jp/zipcode/download.html>

(「小書きで表記」はどちらでもいいですが、必ず「全国一括」でダウンロードしてください)

ダウンロードした ken\_all.zip を展開すれば、KEN\_ALL.CSV というファイルが作られます。  
それを本体スクリプトのフォルダに置けば、「郵便番号検索」ボタンから検索ができます。

## < 仕様 >

● メニューバーはありません。

● Version9 から、Python3 (Ubuntu18.04) 以降にのみ対応しています。  
Ubuntu16.04 以前では基本的に動かないので注意してください。

● レイアウトの数値入力欄において、数値を▲▼ボタンで変更した場合には  
即座に印刷イメージが更新されるのですが、直接数値を打ち込むと Enter キーを押すか  
別の入力欄に移るまで（フォーカスが外れるまで）更新されないという違いがあるようです。

もし何かの値を変更しても**参考画像が変化しなかったら、Enter キーを押してみてください。**

● 表中の郵便番号は、宛先・差出人ともに半角数字でも全角数字でもハイフン入りでも  
大丈夫です。ただし、半角英数字に変換されて表示・印刷されます。

● 印刷イメージの構築は、決して速いとは言えません。

差出人やレイアウトの値を変更してからのサンプルイメージの再表示は、パソコンの性能や  
用紙によってはしばらく待たされるかもしれません。止まったと思わず気長にお待ちを。

● フォントのサイズは、直接には指定できません。

大きめに画像化してから、横？mm、縦？mm の範囲に縮小する方式なので  
内部的にフォントサイズを固定しています。

項目によってはフォントサイズをあまり大きくとっていないので、範囲を大きくしても  
どこかで一定以上には字が大きくなりません。

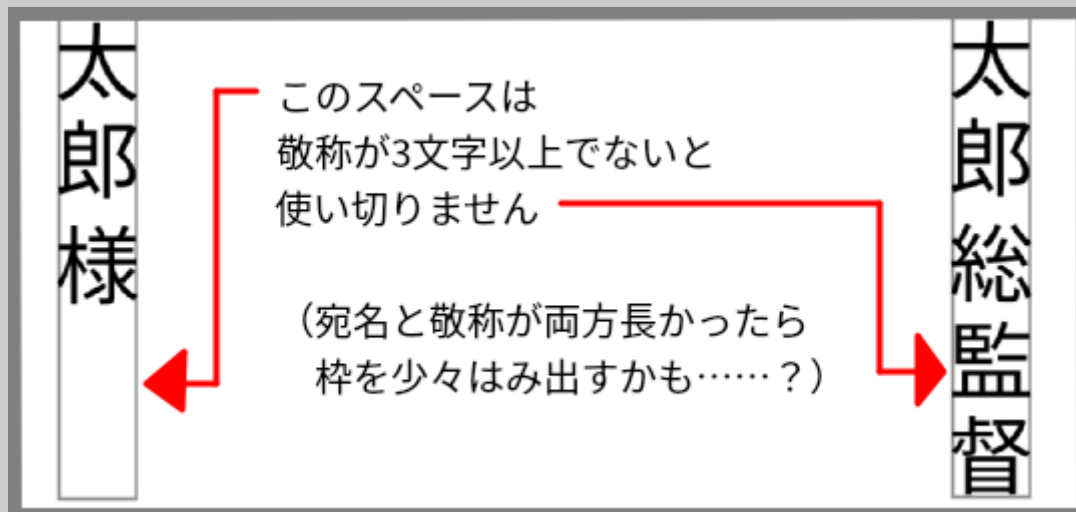
● CSV ファイルを保存すると UTF-8 になるので、ShiftJIS や EUC-JP のファイルを  
上書きすると文字コードが変わります。

● 起動時に読み込む設定ファイルの名は「スクリプト名 + .ini」です。  
もしスクリプトを「test.py」にリネームすると、それまで使っていた設定ファイルも  
「test.ini」に変更しないと読み込まないので注意してください。

● 郵便番号や住所の初期配置は、私が使っている Canon のプリンター iP2700 において  
余白の上下左右の値を 3、7、4、4 にした場合に合わせて調整してあります。  
同じプリンターを使っている人は、余白の数値を同じにすれば、それ以外の配置調整は  
何もしないで宛名印刷ができるかもしれません。（プリンターの個体差などがあるかもしれ  
ないですが）

●当サイトで紹介している Cassava Editor では「X 文字以下の半角数字を横に並べる」という機能がありますが、本ソフトにはそれはありません。数字はひたすら縦に並べるだけです。

●参考イメージの中で、宛先氏名の枠の下端は敬称の最大範囲になっています。  
名前がかなり長くても、敬称が3文字程度ないと枠で示した範囲の下端には達しません。



三字分の空間なので、御中など二文字までしか敬称を使わないなら、宛先氏名の枠下端が若干（一字未満）赤枠や紙の範囲から出ていても大きな問題にはならないと思います。

●敬称の高さのみユーザー指定ではないので、仮の数値で枠のサイズを算出しています。  
なのでフォントが縦長だと、敬称の下端が枠で示された範囲に収まらないこともあります。

●洋形封筒は大半が横向きで縦書き印刷では対応できないので、一部の縦形のみに対応です。

●各パーツの標準配置は年賀状を想定して設定しています。  
通常の官製はがき等に印刷すると、下方にくじがない分だけ空くので手動で調整してください。  
用紙変更時の自動調整では葉書の初期配置を元にするので、封筒でも下に空間が空くでしょう。

## <更新履歴>

Version1 (2017-11-18)：公開開始。

Version2 (2017-12-12)：

○ 幅と高さの数値によっては、郵便番号の左右の端が削られてしまうのを修正。  
（そのかわり、高さに比べて幅があまりに狭いと、郵便番号が縦長になって見苦しくなります。  
郵便番号の一字の幅は高さの 2/3 未満にはしないほうがいいでしょう）

○ 住所表のフォントの種類とフォントサイズを変更できるようになりました。  
「ソフトウェア設定」のタブで設定できます。

○ 印刷の用紙サイズを、いままで適当に A6 にしていたのを  
（可能であれば……たぶん大抵は可能でしょうが）100mm×148mm で印刷するように修正。  
私のプリンターでは A6 でもなぜか問題ないですが、はがきと A6 は幅が多少違うようですね。

Version3 (2017-12-14)：

- 複数のセルを置換すると、一括置換なのに 1 セルごとに履歴に登録されていたのを修正。
- 履歴ダイアログでの履歴リストのダブルクリック、検索・置換ダイアログにおける入力欄での Enter が OK ボタンを押したのと同じ効果になるようにしました。
- 同様に、郵便番号検索ダイアログの入力欄で Enter すると検索開始するようにしました。  
（Enter といっても、変換を確定させるための Enter はもちろん対象外です）
- これまで差出人の郵便番号は半角英数字 7 文字だけが有効でしたが、全角でもハイフン入りでも受け付けるようにしました。  
（ただし、印刷イメージや実際の印刷では、半角英数字に変換されて使用されます）
- CSV ファイルを保存するとき、拡張子をつけていなければ自動的に「.csv」を追加するようにしていたはずなのに、そうならなかったのを修正。

Version4 (2017-12-15)：

X 行から Y 行まで印刷 or イメージ確認において、X>Y だった場合に、これまでは X 行めの 1 行の印刷でした。それを最小値 X と最大値 Y を入れ替えて対処するようにしました。  
これで、4 行から 1 行まで印刷、としても 1 行から 4 行までの印刷と同じになります。

Version5 (2017-12-18)：

往復はがきに対応しました。印刷ボタンの右に往復のチェックがあります。（Ver.26 で廃止）  
1 行を X 部印刷する、という機能はないので返信側の印刷は手間取るでしょうが……

Version6 (2017-12-20)：CSV ファイルのパスを引数にすれば、起動時に開くようにしました。

Version7 (2017-12-21)：印刷の可否が正常に働かない場合がある問題に対処しました。

Version8 (2017-12-27)：Python3 でエラーになる箇所（ConfigParser）があったので対策しました。（追記：あとで結局 Python3 専用書き換えたので意味なかったです）



Version9 (2018-08-17)：Python3 で動くように変更。それに伴い、Python2 に対応する部分は削除しました。印刷イメージのサンプルに使う宛先の住所を多少変更しました。

Version10 (2018-08-22)：印刷処理中に中止できるようになりました。

Version11 (2018-10-10)：括弧を横向けにするようにしました。（機種依存以外は大体網羅しているはず）個人レベルの用途で括弧なんて使わないとは思いますが、一応対応しました。

Version12 (2018-11-06)：レイアウトで各パーツの上下方向の指定が正しく反映されないバグを修正しました。縦書き画像の作成を僅かに高速化できた……かもしれません。

Version13 (2018-11-22)：印刷処理が正常に終了しない不具合を修正しました。  
設定保存ボタンを押しても設定が保存できない不具合を修正しました。

（※注意） 設定保存の修正に伴い、以前の設定ファイルと互換性が無くなりました。  
以前のバージョンをお使いの方がいらっしゃいましたら、お手数ですが INI ファイルを消して設定をやり直してください。

Version14 (2018-11-23)：住所表のフォントサイズを変更するとフォント指定が無効になる不具合を修正しました。

Version15 (2018-12-04)：余白計測用の赤枠画像が印刷できない不具合を修正しました。  
検索や行追加などの各種ダイアログのサイズを多少大きくしました。  
途中に行を追加・削除する場合の行指定がややこしかったので、選択中の行を起点とするようにしました。  
行の追加・削除をしたときにステータスバーに表示するようにしました。

Version16 (2018-12-05)：  
CSV ファイルを開いたときに、印刷する行の範囲を表の行数に合わせるようにしました。

Version17 (2018-12-08)：終了ボタンを追加しました。終了時に設定が変更されているかチェックするようにしました。

Version18 (2018-12-09)：Ver.13 の仕様変更以前の設定ファイル（INI ファイル）を置いた状態では起動不可能になっていたのを、最初に設定が読み込めなかったことの警告ダイアログを表示してから本体を起動できるように修正しました。

Version18a (2018-12-12)：旧仕様設定ファイルの変換スクリプトを作りましたので INI が読めない時のエラーメッセージと、この ReadMe にそれを反映させました。

Version19 (2018-12-28)：

- 連名の場合、今までは 2 列めの宛名や敬称の大きさを 1 列めのサイズから決めていました。それを独立して決定するようにしました。
- 宛名の許容文字数を拡張しました（私の環境で 10 字超で切れるのを 20 字まで OK に）。

○内部設定値の一つを予定と違う値にしていたのを修正しました。（結果的に問題なく動作していましたが）

Version20 (2018-12-29)：住所の2列目は、以前の名前のように1列目の幅と高さを上限にしていたが、幅のみを上限値として使用するようにしました。

Version21 (2019-01-05)：表の内容が変更されているのに保存されないままファイルを開くか終了しようとする、保存するか確認ダイアログを出すようにしました。

Version22 (2019-01-06)：開いたCSVファイルのファイル名、あるいはファイルのパスをタイトルバーに表示できるようにしました。（デフォルトはファイル名です）

Version23 (2019-01-07)：どこかの行が印刷無視に該当した場合に、印刷イメージダイアログで検出された列の内容を表示しなかった不具合を修正しました。

本体バージョン据え置き (2019-10-05)：宛名面の裏側用の年賀状見本を添付しました。

Version24 (2019-10-14)：○印刷する用紙サイズをハガキ以外の封筒にも対応しました。

「ソフトウェア設定」タブの最下段で変更可能 → レイアウトタブに移動しました。

○レイアウト設定画面の一部誤表記を修正。

（※注意）再度、設定ファイルの仕様を変更しました。といっても設定ファイル中の項目名「hagaki-layout =」を「atena-layout =」にただけですので手動変更してください。

Version25 (2019-10-19)：○敬称が二つで第二名が長いと敬称が大きい不具合を修正。

○宛名が二列で敬称が中央に一つの場合に、敬称のサイズを二列の間になるように変更。

○A4 超の封筒は含めていませんでしたが、長形と角形を全種登録しました（洋形はなし）。

○各パーツのサイズ・位置の上限をはがき前提の数値から拡大しました。

○宛名が二列ある場合の敬称の付け方に「左側にのみ敬称を付ける」を追加しました。

○サンプル画像に、住所や氏名など各パーツを収める範囲の枠を表示可能にしました。

紙や枠があまりに大きくなると、フォントサイズが追従できず枠より小さいままになります。

Version26 (2019-10-26)：○往復はがきモードを廃止して用紙選択に統合しました。

○用紙変更の際に、レイアウトをある程度自動調整できるようにしました。

○用紙変更時にフォントが異常になる場合があったので修正しました。

○宛先、差出人それぞれで住所氏名における二列間の間隔を変更できるようにしました。

Version27 (2019-10-27)：○はがき以外の用紙が選択された場合、自動調整確認ダイアログに封筒の糊付けフタ長さの入力欄を設置し、全パーツの位置を自動で下げるようにしました。

○用紙サイズの選択欄を、ソフトウェア設定タブから印刷レイアウトタブに移動しました。

Version28 (2019-10-30)：○封筒フタ長さの分、パーツの位置を下げるだけでなく用紙の縦の長さを拡大するようにしました。

○用紙が A4 超であれば、印刷されないかもしれないことを警告するダイアログを印刷の前に出すことにしました。（縦方向はかなり長くても大丈夫だったので、出すか迷いましたが）

○封筒をトラブルなく印刷するには、封筒の下方からプリンターに差し込んで 180°回転した印刷をするという情報を見かけました。なので、180°反転印刷を可能にしました。余白除去も反転するので各部分がその分ずれそうですが、現状、手動で調整してください。……あれ、この機能をつけるならフタの高さ分下げたり拡大しなくてもよかったんじゃ。

Version29 (2019-11-02)：やはり無駄に複雑になるだけなので、封筒フタ分の用紙拡大やパーツずらしを廃止して、封筒は反転印刷に任せることにしました。

それに関連して、封筒印刷時に反転モードになっていない場合

（と、はがきなのに反転になっている場合）に警告 & 質問ダイアログを出すようにしました。

Version30 (2021-02-20)：

○何行から何行まで、の入力欄が両方とも上限値 100 になっていたのを百万にしました。

とはいえ、あまりに大きい CSV ファイルを開くと、しばらく反応がないので注意してください。（実際に百万行の CSV ファイルを開くと、住所を「住」だけとか内容を簡略化しても私の環境では表示まで十数分かかったので実用的ではありません。一万行だと数秒でした。）

それと、百万どころか 100 枚以上印刷してちゃんとできるかは検証していません。紙を準備する手間、プリンターへの負荷やインク消費等により大量印刷は躊躇します。今回も久々に 10 枚ていどテスト印刷しただけです。

（じゃあ印刷以外はちゃんとテストしているかという、そういうことでもないのですが）

○住所の 1 行目が 2 行目よりも短い場合は、上端で位置を揃えるようにしました。

○CSV ファイルの読み込みが Python 標準機能と独自方式の 2 つあったのを統合できました。それに伴い、標準の読み込み機能を使うかどうかの設定項目を廃止しました。設定ファイルにその設定が残っていても、悪影響はないはずですから消す必要はないです。

Version31 (2021-02-27)：○内部的な修正（機能面で変化はありません）。

○用紙サイズ変更後の自動調整に関するメッセージを多少変更しました。

Version32 (2021-03-02)：○前回の内部修正により Ubuntu18.04 で起動できなくなったことが偶然判明したので元に戻しました。

20.04 の環境下では wx.NewId() という部分が deprecated（英語力が乏しいですが非推奨という意味でしょうか？）となっていたので wx.NewIdRef().GetId() というものに換えました。が、18.04 では「wx.NewIdRef()なんてない」というエラーで起動不能になってしまいました。18.04 のサポート期限は 2023 年でしたか？その頃まで以前のままにしようと思います。

### Version33 (2021-07-04) :

○封筒用の上下反転印刷の場合、プリンターが印刷できない余白の除去を宛名画像に対して反転する必要があったのに、できていなかったのを対処しました。

○郵便番号や宛先と差出人の住所氏名の配置、宛名書きのフォント、印刷用紙の種別とサイズ、敬称の数について、現在の値をファイルとして保存・読み込みできるようにしました。

(「印刷レイアウト」タブの左上に保存と読み込みのボタンがあります)

これまでは複数の用紙サイズや配置を使い分けるとなると、当ソフトが入ったフォルダを設定ごとにコピーして分けるしかなかったので、これで解消できるかと考えています。

○未対応だった洋形封筒について調べた結果、当ソフトの縦書き印刷で印刷できそうだと判断した一部の縦型の洋形封筒のみ、扱える規格一覧に含めました。

○用紙サイズ変更時に、変更前の最大フォントサイズで上書きされていたのを修正しました。

### Version34 (2022-01-09) :

○印刷&プレビューボタンのツールチップやプレビュー画面のスライダーの記述を変更。

○はがき宛先住所のデフォルト配置を以下のように変更しました。

右 96mm、下 72mm、幅 6mm、上下は中央 → 右 94mm、下 24mm、幅 7mm、下に配置

○複数箇所のエラーダイアログが書式ミスで出現しなくなっていたのを修正しました。

○別 PC からソフトを引っ越しさせて使った場合に、レイアウトファイルの環境差(フォントがない)で異常終了する不具合を修正しました。レイアウトファイルが大きく破損していても同様に異常終了していたのでついでに対策しました。

### Version35 (2023-02-03) :

○特定の行全体を選択して(セルだけの選択では対象外です)印刷イメージダイアログを出現させたとき、(プレビューの範囲内の行なら)選択行を最初に表示するようにしました。

○印刷イメージダイアログを表示させたら、扱う行範囲をタイトルバーに示すようにしました。

○CSV読み込みで回りくどい処理があったので修正しました。(機能面で変更はないです)

○「住所表、印刷」タブの名前を「住所表編集、宛名印刷」に変更しました。

(この ReadMe 中の画像は、再作成が手間なので以前のままです)

○「敬称が指定されていない場合、以下の敬称を使用する」のチェックを外した状態で敬称が空の行を印刷ないしプレビューしようとする、印刷イメージが取得不可能になる不具合を修正しました。

○Version32 で撤回した Version31 の内部変更を再度適用しました。

……最近では年賀状じまいということがあるようで、私も親族から今年で終わりという年賀状が届きました。そのため自分が出す枚数もさらに減り宛名印刷の必要がなくなりつつあります。なので、このソフトは今後、ほぼ更新しなくなるかもしれません。

### <確認をした環境>

linuxmint-21-mate

Python：3.10.6

wxPython：4.0 4

pil (pillow)：9.0.1

プリンター：Canon iP2700

にて動作確認をしています。

### <ライセンス>

二条項 BSD ライセンスを適用します。

このスクリプトは無料で使用できます。そして無保証です。

### <謝辞>

ネット上で様々な解説、情報を書いちゃださった方々のおかげで

何とかここまでこぎつけました。

特に「Python-izm」さんには基礎的なことを一から学ばせていただきました。

ありがとうございます。